

現状の課題

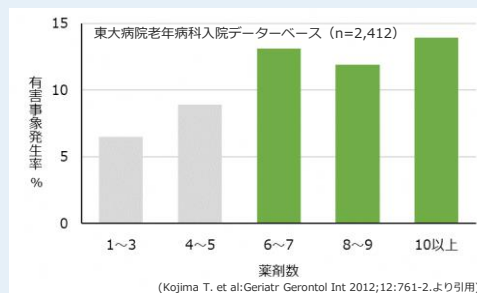
高齢者における生活習慣病の併発が問題として指摘されており、治療薬の多剤併用による健康被害等の問題が指摘されている。
薬剤の影響による眠気等により転倒して骨折入院し、身体機能の衰えが進むこと、また、自立的な生活が妨げられ、介護の重度化につながる可能性も指摘されている。
特に近年では、新型コロナ禍による生活の変化から、外出・運動機会の減少、対人コミュニケーションの減少から孤独な生活を強いられることも問題となっており、特に高齢者における体調管理や生活習慣の改善、服薬指導が大きな課題となる。

生活習慣病の併発と重症化



参考：高齢者糖尿病治療ガイド2018、他

多剤併用による健康被害



新型コロナ禍による生活の変化



目的

レセプトデータに基づいた ①**薬剤の見直し**を「おくすり通信簿」を通じてお知らせし、医療機関・薬局等へ相談するきっかけを提供する。また、②**生活習慣改善**の具体的なヒントおよび提案を通じて、減薬や薬剤依存脱却による健康寿命の延伸を促進する。



事業の特徴

対象者に寄り添うために、難しくなりがちなレセプトデータの分析結果を**わかりやすい冊子で提供**するとともに、ヘルスケア専門のコールセンターから、**ひとりひとりの健康や服薬状況に合わせたアドバイスを丁寧にお届け**する。



おくすり通信簿で服薬過剰による有害事象を予防

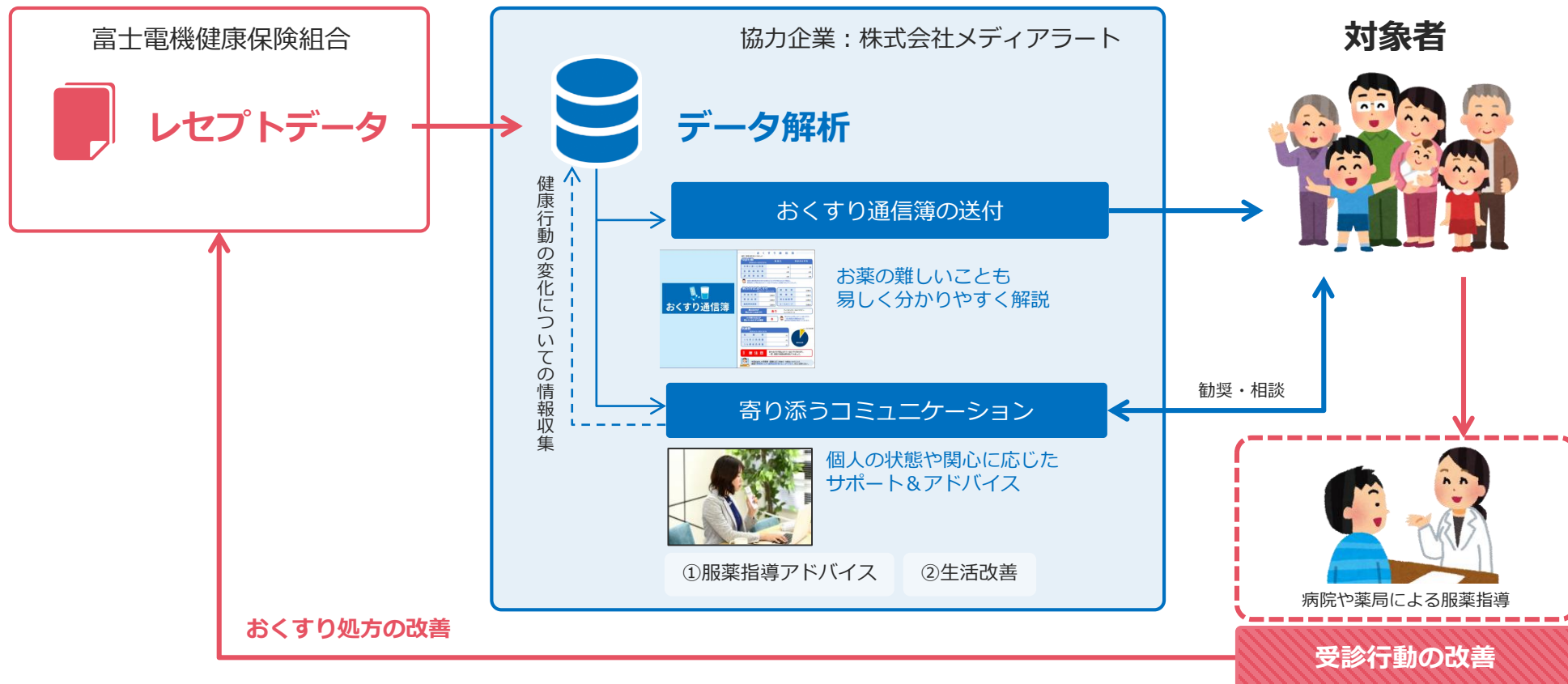
重症化リスクを
わかりやすく伝えて
現状改善のサポート



ヘルスケア専門のコールセンターから
全国各地の対象者へ

全体的な事業内容

レセプトデータに基づいたコミュニケーションを行い、人から人への共感を通じて個人に合わせた減薬指導を進める、**データに基づくヘルスケアの循環モデルを構築**



成果指標の算定

介入前後3ヶ月間のデータを元に成果を算出

減薬効果量% = (介入年度の薬剤変化量 - 前年度の薬剤変化量) ÷ 当該年度介入前の調剤情報 × 100(%)

疾患毎に適切な減薬指標が異なる為、**薬剤数、力価、使用量の3点を対象に効果を算出し、その内最大のものを各個人の減薬効果量(%)とし、これの全体の平均値を成果指標とする**

期待される結果と今後の展開

意識改善および行動改善

健康改善への興味関心を高める

薬局や医療機関とさらに連携

薬局、医療機関等にも情報提供し、
投薬適正化をさらに促す